



# 石井造園株式会社

〒247-0006  
神奈川県横浜市栄区笠間 4-11-5  
TEL : 045-891-1501  
FAX : 045-891-2785  
https://www.ishii-zouen.co.jp



## 未来に伝える みどりを通じたコミュニティ

石井造園株式会社 代表取締役 石井直樹

昨年企業のDX化とAI活用についての勉強会に参加いたしました。品質管理を始めとするあらゆる業務で活用の可能性を感じ、効率化を図れそうでした。企業は働き方改革によりDXの活用等で労働時間は短縮傾向にあります。一方で造園工事業は労務を中心として技術力を駆使し、カスタマイズした一点物を日々創り続ける仕事です。管理面でのDX化や知識見識に基づくAIの発想は活用の余地はありますが、人間力あふれる社員の汗と、日々研鑽に励む技術力を駆使し、社会に奉仕する事業スキームはAI影響の及ばない領域に有るのだと思っています。

さて、今年に入り2025年日本国際博覧会開催の機運も高まり賑わいを博しています。テーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の多様性を認め合い一人ひとりが輝きあうイメージは大いに共感いたします。地元開催のGREEN×EXPO 2027では「幸せを創る明日の風景」のテーマの元、自然との共生、幸福な未来社会の形成、友好と平和の発信をして参ります。確立したコンセプトの中に、ネイチャーポジティブが組み込まれ、生物の多様性を確保しながら自然再興することで人も自然も幸せを共有することが盛り込まれました。石井造園の経営理念「企業活動を通して、幸せを共有する」と合致しておりこちらも喜ばしい事です。

昨年企業活動の環境面は三つの柱で運営しています。脱炭素を意識して、17年前からCO2排出量を公表し、2015年から10年目のカーボンオフセットを今年も完了いたしました。循環経済への移行として伐採木の燃料化をし、またコースターや楊枝を作りアップサイクル商品を模索中です。ネイチャーポジティブは、緑地管理をする中でむやみに殺虫剤を使わない、虫や鳥の生息域を鑑み管理時期をずらすことで多様性を確保する、巣箱の設置など造園業として知識を生かした活動を展開してまいります。

ネイチャーポジティブを意識した活動では、みどり環境局からの公募では「ま・ゆめパーク」公園利活用の企画を提案し、採択頂き活動を行いました。UCHISOTO CAFEと連携しながら笠間中央公園での自然観察会と、栄区少年補導員連絡会との協働事業で樹名板の取り付けを行いました。二つの活動でより身近に自然を取り入れた暮らし方の一助になれたと思います。



## 経営理念 企業活動を通して、幸せを共有する企業を目指す

### CSR方針

石井造園株式会社は経営理念にある、企業活動を通して、幸せを共有する企業を目指すため、生業の全てにおいて、地域志向CSR方針を打ち立て事業を展開していきます。

- 1) 生き生きとした活力ある職場環境を作ります。
- 2) 仕入れや発注先は地元を優先し、地域経済の発展に寄与いたします。
- 3) 緑を扱う者として地球環境の改善に貢献します。
- 4) 法に抵触する事はもとより、事後に発覚し格好の悪い事は、絶対にしません。
- 5) この活動の有効性を監視し永続的に改善します。

CSR方針に基づき地域社会の一員として、地域に活かされている我々である事を確認し、地域貢献企業として事業を展開していきます。

### 2025年度 CSR 目標

- 1. 社員の家族を巻き込んだ活動を行う
- 2. 環境経営としてアップサイクルとネイチャーポジティブを推進する
- 3. 各現場で緑化啓蒙活動を実施し、2,500本苗木配布を行う
- 4. みどりを通じたコミュニティの輪を拡げる
- 5. 業務が及ぼす生物多様性への影響力を調査、研究する

# ～活き活き活動・地域に貢献～ 石井造園の取り組み紹介

## ■社会貢献に対する取り組み

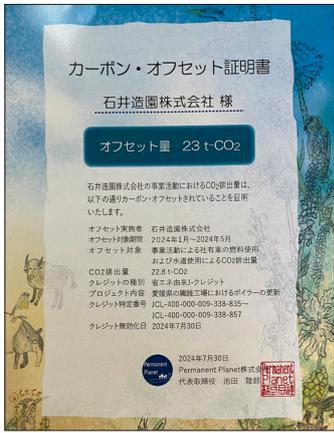
弊社のCSR活動の中で小中学生を対象にして継続している活動がいくつもあります。中学生の職場体験や、はまっこ未来カンパニープロジェクトへの協力、日本建築家協会神奈川支部の法人協力会員としてこども空間ワークショップの実施協力等。そのような活動の中で近年地元小中学校の要請で弊社の社員による出前授業があります。いままでは石井社長が講話・講演で伺うことはありましたが、現場で動く社員たちの言葉でのテーマにあった授業要請が増えてきました。飯島小学校では佐藤造園部長がSDGs環境講座をFANCL様と協働して行いました。後日子供たちより大変嬉しいお礼のお手紙を頂戴しております。また神奈川県中学校では奥山課長が2回の講義を行いました。1回目は造園業の体験学習として校内の樹木の剪定と持ち込んだ竹を鋸で切る体験をしてもらい、2回目は生徒自身が造園業でSDGsの課題を解決する提案を考え発表してもらいました。それを受けて弊社の取り組みを紹介し生徒により深い理解を求め彼らの今後に期待する旨の話をしました。中学生は熱心に取り組んでくれてSDGsのことをよく考えてきたことに感心したとの担当者の報告がありました。このように日々の活動の中で社員も刺激を受け成長する機会をいただいています。

長く継続してきている、横浜市のみどりアップ計画に賛同した苗木配布の今年度の目標は昨年実績を踏まえ同じく2,500本でした。今年度も計画と実行がうまくかみ合い、目標を大きくクリアすることができ、765本（目標比110%）を達成しています。横浜市全体がGREEN×EXPO 2027に向けて盛り上がりを作っ

いく中で弊社もさらに力を入れてみどりのある生活に親しんでいただく、みどりを通じたコミュニティづくりをしてその中心にあり続けるよう今後も励んでまいります。

## ■環境に対する取り組み

CO<sub>2</sub>の排出量は例年1月から12月を年度として計算していましたが、今年度より弊社の決算年度である6月から翌5月に合わせ計算することになりました。従って今年度の排出量に関してのご報告は来年の報告書に記載させていただきます。また排出量に関しては年度の累計をホームページにて毎月更新してまいりますのでそちらをご覧ください。昨年1月から5月までの排出量は22.8t-CO<sub>2</sub>でした。これは例年通り全てオフセットしています。また今年度横浜市より受注した「平戸第二公園施設改良工事その2」におけるガソリン、軽油の使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量1.8t-CO<sub>2</sub>も全てオフセットしています。



事務所の使用電力は100%再生可能エネルギー電力を購入してまいりましたが、今年2月に弊社屋上の太陽光発電パネルを増設し、これにより弊社事業所における電力は自家発電にて賄うこととなりました。弊社の既存設備で発電した電気は石井造園発電所として電力供給しており、この電力を購入使用していただく事で第三者のCO<sub>2</sub>削減に役立っていただいています。使用車両のEV化



については現場使用車両の1台をハイブリッドバンに切り替えました。今後もEV化への努力は続けてまいります。今年度から取り組むテーマに「ネイチャーポジティブ」という大きな考え方があります。ネイチャーポジティブとは生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せることを意味します。気候変動に関しては目標設定に関する定量的なフレームワークが開発されていますが、生物多様性に関しては、まだフレームワークは開発途上です。カバーしなければならぬ領域も生態系や種の保全、水の量や質、土壌汚染など多岐にわたります。弊社の持続的な社会への取り組みはカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、そしてネイチャーポジティブをトライアングルとして考えてまいります。

## ■情報公開に対する取り組み

課題として取り上げられていたホームページは完成し昨秋より公開されています。情報としては今まで通り環境

負荷やお客様アンケートを公開しており、苗木配布と緑化基金の実績及びCO<sub>2</sub>の排出量に関しては毎月累計を更新して見やすく表示されています。2006年にISO9001:2015に初回認定をいただき20年目を迎えます。今年4月に第7回目の更新審査を受けました。弊社が運用する中でISO、CSR一体となって取り組んでいることや、環境配慮を欠かさず自社の電力を100%太陽光発電で賄っていること、また排出したCO<sub>2</sub>を公表し全てオフセットしている点は高い評価を受けています。あらゆる審査基準を上回り今回の審査においても企画要求事項をすべてクリアしているとの判断を受けています。品質を担保することは、企業が適切に社会に貢献できている証明だと考えます。

## ■ワーク＆ライフバランス

企業経営において社員の健康管理は重要な課題の一つです。企業が社員の健康を保持・増進するための取り組みを行い、これが企業の生産性向上や業績向上につながるかとされています。この考え方が経済産業省も推奨する健康経営ですが、この度横浜市が認証する横浜健康経営認証のクラスAAを取得しました。

次年度の休日は5日増やし年間110日としました。これも社員が体を休めリフレッシュしてもらうのに必要と考えています。今後も社員の健康課題の把握及び健康課題に即した取り組みの結果を十分踏まえて次の取り組みにつなげクラスAAを目指します。この横浜健康経営認証を取得したこと、横浜市の実施する4つの認定・認証制度（横浜型地域貢献企業、よこはまグッドバランス企業、横浜健康経営認証、横浜SDGs認証Y-SDGs）を全て取得したことになります。

今年も4月に社員旅行に行くことができました。岡山から神戸の2泊3日の旅行では3大名園のひとつ岡山後楽園や国宝姫路城と隣接する好古園を訪れ見識を深めました。



また神戸ではPI事業やパークPIに取り組んでいる村上工務店社長の村上豪英氏の話聞くことができました。村上氏は石井社長のJCの後輩で、弊社が取り組んだ川崎市の万福寺ひのきやま公園実証実験にも来ていただき石井社長とトークセッションをしていただきました。今回の廃校になった小学校の跡地利用については村上氏の思いとアイデアに社員一同感銘し大いに勉強になりました。PI事業「上郷森の家」に参画している弊社にとって今後の活動において大事な経験でした。



## 栄少年補導員連絡会との連携による樹名札設置活動

令和6年10月6日(日) 栄少年補導員連絡会の活動として、笠間中央公園にて樹名札を作成し取り付ける活動を行いました。この活動を石井造園が全面バックアップ。公園管理者との調整、事前の調査、樹名札用のプレートの作成、当日の備品準備等を引き受けました。この企画は弊社の佐山工務部長が警察行政の協力企業として少年補導員連絡会に10年にわたり出向してきた中で実現したものです。栄区内の小中学生に参加を呼び掛けたところ児童14人とその家族18人の参加をいただきました。当日は朝から小雨まじり天気も心配されましたが、公園に来ていた親子も飛び入り参加するなど大いに盛り上がりました。樹名札作成は参加者全員が初めての挑戦でした。樹名札をかける「樹」の種類をスマートフォンで調べたり確認する子供たちを見てその熱心さに感心しました。そうして樹名札が完成した後、参加者の皆さんと弊社の社員、補導員の方々、警察署署員の方々と共に園内で樹名札に該当する「木」を探し樹名札を取り付けました。参加者が「後日また自分たちが付けた樹名札を必ず見に来ます。」と話してくれたのを聞いて公園に足を運ぶきっかけづくりになったことが嬉しく思えました。連絡会では、この取り組みを今後もまた別の公園で継続していきたいとのことでしたが、すでに今回の活動を聞いた笠間三丁目公園は笠間小学校との課外授業に発展しました。他にも市内の他公園愛護会からもお声がけを多くいただいております。活動の広がりを感じます。



# ついでに、無理なく、達成感のある活動

## 公園の利活用

今年度の新たな取り組みとして、昆虫系ユーチューバーの、むしおかだいき氏を招いて、地元の公園で昆虫を探すイベントを催しました。このイベントはウチソトカフェの向かいにある笠間中央公園を会場として、地元の笠間にはどんな昆虫が生息するのかに焦点を当て、草の中や樹木の上など様々な場所で昆虫探しを行いました。しかし、昆虫探しを開催するにあたり、昆虫の生息場所をいかに残すのが課題となりました。横浜市の公園は市の委託業務により草刈りが実施されます。そのため、9月のイベントの開催時期の前に草刈が実施され、昆虫の生息場所が失われ思うように昆虫が見つけられない可能性があったのです。

そのため、私たちは横浜市に、ネイチャーポジティブの観点から生物多様性を学ぶこのイベントのために、公園の一部の草刈りやら



ないでもらうよう依頼をし、イベント終了後に愛護会を中心に草刈りを行うことにしました。その甲斐あって、イベントではバッタやカマキリなどの様々な昆虫を発見することができました。捕まえた昆虫は、むしおかだいき氏の解説を聞いた後、これからもこの地域で元気に暮らしてくれることを願いながら公園に返しました。専門家から昆虫が生息するには豊かな自然環境が必要であることを改めて伝えられたことは、一人の活動でも環境の保全に寄与できるのだと伝えられたのではないかと感じます。

昨今、里山や森林の減少が深刻化している現状を食い止めるために、私たちはネイチャーポジティブに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## 職場体験、SAKAEヤングフェスティバル、苗木配布

今年度は上郷中学校から男の子3名、小山中学校から女の子4名の計7名が職場体験に来てくれました。中学生に体験してもらった仕事は、マンシヨンの樹木の剪定や切った木の清掃作業です。作業現場では中学生が自分たちでよく考えて積極的に動いてくれたのがとても印象的でした。企業での職場体験を通して働くことの楽しさや大変さや、仕事に対するやりがいなどを感じてもらえたのではないかと思います。



3月には職場体験に来てくれたら5名の生徒たちとSAKAEヤングフェスティ

バルでブルーベリーの苗木配布を行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、中学生たちに元気よく配布してもらえたおかげで、200株の苗木が来場者の方々に届きました。苗木配布を体験してもらったことでみどりを通じた地域とのつながりを感じてもらえたのではないかと思います。



# リトアニアでのサクラ植樹

昨年度から行っているリトアニアでのサクラ植樹は継続事業となりました。この事業が始まった経緯は、2022年がリトアニアと日本の友好100周年の節目の年で、その時に日本文化を伝える機会があったことが始まりです。



「ピリニユス」という街には杉原千畝桜公園という大きな公園があります。この公園は多くのユダヤ人の命を救った杉原千畝氏の功績を称えて作られたもので、公園にはたくさんサクラが植えられています。わたしたちはこの公園に毎年2本ずつサクラを植えていこうと計画しています。

5月28日に行った植樹式には日本大使館の方や現地の盆栽家など10名ほどにお集まりいただき、全員でサクラの植え付けを行いました。いっしょにこの公園が一面サクラで覆われるようになるのが私たちの夢です。  
ネリス川の畔には清心園という日本庭園があります。この庭は個人の所有物ということもあり、

なかなか樹木の手入れが行き届いていません。そこで、現地在「マツ」のみあげ」という手入れの時期に適した気温になる昨年10月に再訪して現地の方とマツの手入れを行うことにしました。初めて行う「もみあげ」は、最初は戸惑いながらの作業でしたが、次第に手際よくなるようになっていきました。最後には日本庭園にあるようなマツに仕立てて、日本からリトアニアに渡った「もみあげ」は私と現地の方との共通言語となりました。

サクラは日本の春の訪れを告げる美しい花だと海外の方にも知られています。西国の平和を願います。西国の方にもサクラの植樹と樹木の手入れの技術を伝える活動を続けたいと考えています。

もちろん、金言葉は「momiagei」  
サクラ植樹の変遷  
2023年6月15日 2本  
2024年5月24日 2本  
2025年5月28日 2本  
2025年5月31日 現在  
合計6本

緑化基金は2008年に弊社が独自に設立しました。基金は学校や施設、団体の緑化活動の為に使用します。基金の集め方をお客様からご発注いただいた工事金額の下3桁を基金として集め、さらに弊社から同額を上乗せします。それに加え、2021年度からは会社の入り口に設置した自動販売機で飲み物を1本買うと5円分の基金を集めるようにしました。それらを集計した今年度の基金は、皆様のご協力もあり515,704円となりました。この活動をこれからも継続し、みどりの啓蒙活動に努めてまいります。



基金：243,612円×2 = 487,224円、自販機：28,480円、今年度の基金：515,704円

## 令和6年5月～令和7年4月 緑化基金にご協力頂いた皆様

- (一社)横浜市造園協会/(公)神奈川県労働福祉協会/(宗)青木神社/(非一社)Silva/相原様/青山様/秋本様/あすか製菓(株)/阿部様/荒井様/新井様/飯島様/イオンディライト(株)/池田様/石井様/石川様/石黒様/石原工務店(株)/伊藤学園上野毛幼稚園/井上様/若根様/インペリアルプラザ管理組合/ラーたん保育園/植木屋屋敷/上房様/白井様/海井様/美しが丘中部自治会/エヌケンホーム(株)/海老名様/エンゼルケア管理組合/大内様/大河商事(株)/オーケー(株)/大澤様/大城様/大谷様/大西様/大船ルーテル保育園/大森様/岡野様/沖様/尾木原様/尾見様/笠間中央公園多目的広場管理運営委員会/鍛冶ヶ谷カトリック教会/加嶋様/鹿島神社管理委員長/花・草・木/学校法人湘澤学園 理事長 後藤康夫様/加藤様/金沢シーサイドタウン並木二丁目第一住宅管理組合/金子様/鴨井様/川名様/川原様/岸田様/北野様/北村様/吉備様/國本様/グレースシアガーデン希望ヶ丘団地管理組合/黒崎様/クエアーカーエンジニアリング(株)/小泉様/小若井様/合資会社つちや/光照寺/公立大学法人 横浜市立大学/肥塚様/小雀建設(株)/後藤様/紺道様/齋藤様/齋藤様/栄区社会福祉協議会会長/坂田様/坂本建設(株)/佐久間様/櫻井様/佐藤様/佐野様/サンクダス横浜洋光台管理組合/三洋整備(株)/柴橋様/清水様/篠様/東海林様/白井様/菅様/鈴木様/スタジオエイト/住吉神社/関様/相鉄企業(株)/管我様/第3大船パークタウン管理組合/ダイアパレスワンダーズスクエア管理組合/高田様/田尻様/田中様/田辺様/田村様/椿様/土居様/戸井田様/東急建設(株)/東急建設(株)上郷緑地活用プロジェクト/横浜市グリーン事業協同組合/三洋整備(株)/東洋英和女学院大学/遠井様/吉和園/トーフ能見台管理組合/中島様/長島様/長瀬様/長沼様/並木第9管理組合/西島様/西村様/日本精工(株)藤沢工場/根本様/野澤様/橋本様/蓮池様/比嘉様/平井様/平野様/ヒルトップギャラリ-横浜レジデンス管理組合/廣田様/ファミリー葉山シーガリア管理組合/福井様/福岡様/藤本様/保坂様/星様/星通商(株)/ほどがや市民活動センター アーウズ/本多様/本間様/前田様/前田造園/松井様/松尾様/松橋様/松本様/松山様/マンションニュー大船管理組合/水間様/道下様/三好様/村上様/恵味名様/森野様/森本様/八板建築設計事務所/柳下様/柳沢様/矢吹様/山一体育施設(株)/山口様/横浜市/横浜市グリーン事業協同組合/横濱大船住研/横濱工務店(株)キクシマ/横濱キックアウト(株)木風/横濱スタジオオゾン/クマガイ/188/横セブサービス/横創建/横創設計/横ダイエー/横西口不動産/横ハリマシステム/横プラネット/横丸山製作所/横宮野工務店/横未来風景舎/横ローラズ/横清心会/横ももの会/横ももの会もも保育園/横横浜市社会福祉協議会/横ル・プリ/横浜建/横緑園建設/(順不同)敬称略

## 寄稿 ストーリーがある戦略と 情報発信の課題 影山摩子弥



造園業は、樹木を扱い、守り育てる業務を伴うことから、環境を大事にする業種という印象を与えやすく、環境保全の領域と親和性が高いと言えます。企業がCSR(Corporate Social Responsibility; 企業の社会的責任)やSDGs(Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標)に取り組む際は、取り組みを継続し、質を高めるために、ストーリー性が重要です。ストーリー性というのは、なぜその取り組みをするのかという説明において、思いや前向きな姿勢が感じられる点があることを意味しており、その説明を聞いた者が肯定的に受け止め、納得するような要因です。それによって、顧客や地域住民、従業員との共感を得ることになります。つまり、共感に結びつく要素です。特に重要であるのは、社会貢献活動におけるストーリー性です。ストーリー性がなく、思いもなく形だけで行っている印象を与えるからです。

造園業の場合、樹木を守り育てる点から環境をキータームにして、CSRやSDGsに取り組みすると、共感を呼びやすくなります。石井造園さんでは、社会貢献活動として、樹木を尊ぶ樹齢祭や苗木配布、昆虫観察会、樹名板(じゅめいばん)の作成会、リトアニアでのさくら植樹など、環境に関わる取り組みをされています。さらに、石井造園さんは地域に根付いた中小企業という面も持つため、地域の浮沈に影響されるため、直接石井造園の

地域が変わると、生息する生き物が随分と変化します。同じ日本の中でも車で5時間も離れたところまで行くと、知らない植物に出会えます。日本には約7,000種の植物が生息し、そのうち約2,900種は日本の固有種であるといわれています。植物にはそれぞれに好きな環境があります。陽が良く当たる場所、薄暗い場所、水気が多くじめじめした場所、高い山の上など好みは様々。その環境の中で厳しい生存競争に巻き込まれ一生懸命生きています。県内で見かけたある樹木は、大きな樹木によって日照が妨げられているため、樹木との隙間から差し込む光

と、いふ事情がストーリーの要素となります。つまり、地域活性化のための取り組みがストーリー性を持ちます。石井造園さんでは、樹木を育てることからのつながりをイメージしやすいこともあって、人を育てることに力を入れ、小学校でのSDGs講座、中学生の職場体験、やきいも大会、環境への取り組みも兼ねる樹名板作成に取り組みしています。

CSRは取り組みを利害関係者に伝えることが重要ですが、どの取り組みも参加者との接点があるため、直接石井造園の

を求めて、幹をグニャリと曲げて太陽からの光を少しでも多く浴びようとしていたのを見たことがあります。

植物は種から芽を出して、やがて大きな樹木になっていくことは皆さんご存じでしょう。しかし、一度、根を下ろすと移動できないのが樹木たち。芽を出して見てびっくり「ここは、全然陽が当たらないじゃん」なんて思っている樹木もいそうなのが樹木たち。樹木の種は鳥などが種ごと実を食べて運んでくれますが、種がどこに落ちるかは鳥の糞次第。ただ、どこで発芽しようと関税を取られないだけかもしれませんが、もしもありませんね。

姿勢が伝わります。これらを勘案すると、CSRの本質を理解されていることが分かります。ただ、毎年発行されているCSR報告書がホームページに掲載されていますが、2023年の発行で止まっています。環境負荷報告書は簡潔ですが、いつからいつまでのデータかわかりませんし、不透明でなく、環境救済・保全に寄与したデータを掲載されてもよいように思います。情報発信にもう少し力を入れたいと思います。

## 樹木医 ニラム 樹木医 佐藤 一将